

友史会2023年12月例会

蘇我氏の古墳と細川谷の群集墳

12月17日(日) 近鉄吉野線飛鳥駅 午前10時集合

案内： 平井洸史 学芸課主任技師

コース： 飛鳥駅 → 檜隈寺跡 → 栗原寺跡 → 塚本古墳 → 飛鳥公園芝生広場
(昼食休憩) → 坂田寺跡 → 都塚古墳 → 細川谷古墳群(打上古墳)
→ 石舞台古墳解散

12月にもかかわらず異常な暖かさが続いた後、一挙に真冬の寒さに戻り師走らしい朝となりました。

集合場所の飛鳥駅で今回ご案内いただく平井先生のご挨拶の後、10時すぎに檜隈寺跡に向けて出発。参加者は125人。みなさん十分な寒さ対策をされていました。天気予報では晴れでしたが、空が急に曇ってきて小雪がちらつき始めました。

檜隈寺跡前案内所での説明の後、すぐ南の「檜隈寺跡」に向かい、東漢氏の氏寺として造営された寺院跡を見学。発掘調査の結果、細長い丘陵の上のため他にあまり見られない伽藍配置になったのではないかとのことですが、飛鳥南部の丘陵地に造営された渡来系氏族の氏寺はこのような変則的な伽藍配置を取ることが多いそうです。

次に栗原寺跡へ向かいました。このころには雪もやみ晴れてきたので一安心。「栗原寺跡」には狭い道の横に案内があるだけのため、少し手前の公園で説明していただきました。栗原寺も東漢系の寺とされていますが、今のところ明確な伽藍遺構は確認されておらず、近隣の丘陵の上に分散的に堂塔が配置されていたと推測されているそうです。

ここからは上りの道が続き長い列になってしまいましたが、朝風峠を越えて行くと塚本古墳が現れました。この古墳は7世紀前半の築造と考えられる一辺39mの方墳で、このあたりでは石舞台古墳、都塚古墳、打上古墳に次ぐ規模でしたが、現在はその一部しか残っていませんでした。

このあとは丘陵の中腹の道を通り飛鳥歴史公園芝生広場に到着し、昼食休憩を50分ほど取りまし

た。

昼食後は丘陵を下って「坂田寺跡」に向かいました。坂田寺は鞍作氏の氏寺と考えられているもので7世紀前半の遺構も検出されているとのことでした。

ここからすぐのところに「都塚古墳」があります。階段ピラミッドのような多段築の墳丘構造を持ち、1辺約40mの方墳で内部に両袖式の横穴式石室をもっています。この都塚古墳は蘇我稲目の墓とする説もありますが、時期的なズレがあるため特定できず、蘇我氏に関連する古墳である可能性は高いそうです。

この後「細川谷の群集墳」に向かいました。細川谷ではおよそ200基の古墳があると推測されていますが、上5号墳のあたりから打上古墳あたりまでが一つの群集墳と考えられているそうです。打上古墳はこの群集墳の中では比較的大型で径30m程の円墳と考えられていますが、発掘調査がなされていないため詳細は不明だそうです。打上古墳までは急な登り道でしかも入り口がせまく、全員の見学は時間的に無理なので希望者のみ途中離団の形で見学していただくことになりました。

最後に蘇我馬子の墓とされる「石舞台古墳」を訪れました。夕暮れせまる中で平井先生のお話を聞いた後、16時過ぎに現地解散となりました。

平井先生、本日一日ご案内いただき、誠にありがとうございました。

奈良県宇陀市 福山雄二

飛鳥駅集合



檜隈寺跡で説明



栗原の道を歩く



塚本古墳



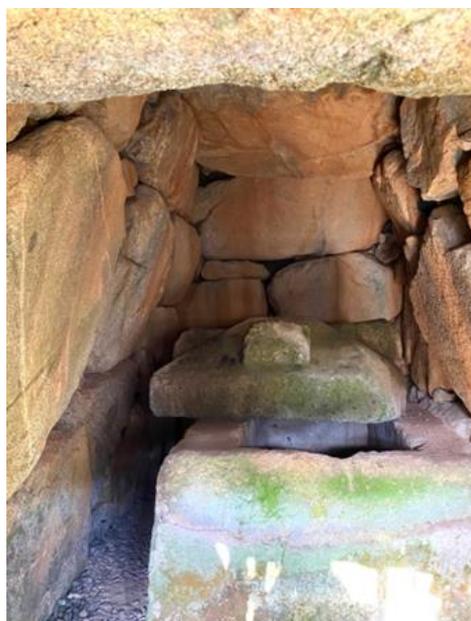
坂田寺跡



都塚古墳で平井先生の説明



都塚古墳石室



細川谷の棚田

